

リソースの連携強化に向けたあきたの男女共同参画連携 会議の開催【秋田県】

総事業費	939 千円
交付金額	470 千円

地域の実情と課題

- 本県の総人口は925,933人(令和5年1月1日現在)で、この1年間で15,815人(1.68%)減少するなど、人口減少や少子高齢化が急速に進行している。
- 女性の有業率は全国平均を上回り、育児をしている女性の有業率は全国上位にあるものの、管理的職業従事者に占める女性の割合は低く、政策・方針決定過程への女性の参画は遅れている状況にある。

事業の特徴

- 令和4年度に整備した「秋田県女性人材データバンク」の登録者や、地域における男女共同参画及び女性活躍推進を担う「あきたF・F推進員」など県内で活躍する女性等(リソース)と、市町村及び男女共同参画センター職員を対象に講座や分科会を通じた意見交換等を行い、相互連携の仕組みを整え、その活動を促進する。

事業の効果

- 女性人材データバンク登録者やあきたF・F推進員等を対象とした連携会議を開催し、アンケートでは、「様々な世代の人達の男女共同参画に対する思いを聞くことができ、視野が広がった」など、ジェンダー平等や女性活躍について理解が進んだほか、意見交換により参加者間のつながりを強めることができた。
- 県や市町村が主催する事業において、リソースと連携し実施することで、地域における課題解決に向け取り組むことができた。

目的・目標

- 県内民間事業所の管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合については、令和7年度目標23.0%に対し、令和5年度実績は22.2%。

連携団体

【あきた女性の活躍推進会議】

- 経済団体
 - ・秋田県商工会議所連合会
 - ・秋田県商工会連合会
 - ・秋田県中小企業団体中央会
 - ・秋田県経営者協会
 - ・秋田経済同友会
- 農業団体
 - ・秋田県農業協同組合中央会

- 秋田県中央男女共同参画センター指定管理者(NPO法人いきいきFネット秋田)
- 労働団体
 - 日本労働組合総連合会秋田県連合会
- 行政
 - 秋田労働局、秋田県、秋田県市長会、秋田県町村会
- ※オブザーバー
 - 金融機関、企業支援機関等

今後の課題

- 男女共同参画センターを拠点とし、女性人材データバンク登録者やあきたF・F推進員等の地域におけるリソースの連携強化を図るために、センターが実施する研修等の企画・運営への参加や相互協力が図れる体制づくりを、より一層進める必要がある。
- 県や市町村だけではなく、企業等が主体となって実施する女性活躍推進に向けた取組に対しても、リソースを活用した支援を広めていく必要がある。

事業の概要

あきたの男女共同参画連携会議の開催

女性人材データベース登録者やあきたF・F推進員、男女共同参画センター職員など県内で活躍する女性等を対象に講演や分科会を通じた意見交換等により相互連携の仕組みを整え、その活動を促進することを目的として、取組事例発表、基調講演や分科会を開催した。

〔開催日〕 令和5年9月24日(日)

〔開催場所〕 秋田県生活総合文化会館「アトリオン」(秋田市)

〔開催形態〕 対面及びオンライン

〔開催規模〕 60名(うちオンライン17名)

〔開催内容〕 ・取組事例発表

発表者 横手市担当者

あきたF・F推進員 長谷川 聖史 氏

・基調講演

「令和時代のジェンダー平等～持続可能な地域社会をめざして～」

講師 萩原 なつ子 氏(国立女性教育会館 理事長)

・分科会

①男女共同参画を語る”さんかくカフェ”

情報交換や交流を深め、新しい連携が生まれ、気づきや発見を得られることを目的とする。

②キャリア形成のためのメンタルの整え方

自身と向き合うことで心の整理や癒やしなどが明日への活力となるため、上手な気持ちの切り替え方や自己肯定感のあげ方などを学ぶことを目的とする。

③だれもが暮らしやすいまちづくりワークショップ

女性をはじめ多様な地域住民の声をまちづくりに反映させる仕組みと場づくりのヒントをワークショップの体験を通して得ることを目的とする。

